広報 Ibaraki Public Information
いばらき
2026年（令和８年）
１月１日　発行
1
No.1144
January 2026

◆編集・発行
茨城町 町長公室 秘書広聴課
〒311-3192
茨城県東茨城郡茨城町小堤1080
☎ 029－292－1111
メールアドレス
ibarakit@town.ibaraki.lg.jp

◆人口
住民基本台帳
令和７年11月末現在
男　15,129人
女　15,083人
総人口　30,212人
世帯数　13,745世帯

◆茨城町民憲章
1 ふるさとの自然を守り、美しい環境の町をつくりましょう。
1 からだをきたえ、教養を高めて、すこやかな町をつくりましょう。
1 隣人や家庭の愛を大切にして、まごころのかよい合う町をつくりましょう。
1 自分の仕事に責任と誇りをもち、活気に満ちた町をつくりましょう。
1 文化遺産を愛護し、先人の努力に感謝できる町をつくりましょう。

◆町の花　桜
◆町の木　梅
◆町の鳥　うぐいす

◆町の防災行政無線が聞き取れなかった場合
防災行政無線テレフォンサービス
☎０８００－８００－８８４８
（通話料無料）
町ホームページにも放送内容を掲載しています。

◆町の情報発信中!!
●町公式ホームページ
https://www.town.ibaraki.lg.jp/
●町公式Ｘ（旧ツイッター）
https://twitter.com/IbarakiTownMati/
●町公式インスタグラム
https://www.instagram.com/townibaraki_official/
●町公式ライン
https://page.line.me/?accountId=ibarakitown

里山に育む生きものたち

№162　カイツブリ

学名　*Tachybaptus ruficollis*

写真・文　仲田　立

冬羽のカイツブリ

カイツブリ（鳰）とは

カイツブリの名前の由来は、「水を掻いて潜る」様子から「かきつぶり」が転じたという説が有力です。また、古名の「鳰（にお）」は、水に潜る（入る）鳥という意味です。潜水して魚類や甲殻類を捕食するので、この辺の方言でモグッチョなどとも言われます。留鳥として本州中部以南に分布し、涸沼では一年中普通に見られます。

雌雄同色。冬羽は、嘴は赤みがあり上部が黒い。全身黄色味のある褐色で、頭頂と体上面は色が濃い（写真）。夏羽は嘴が黒く、嘴基部に黄色い斑があり、体上面は黒く、体下面は褐色です（写真１）。雛は独特の縞模様があります（写真２）。

巣

鳥の巣は、子育てをするために作られ、普通は雛が巣立ちするまで使われ、その後放棄されます。カイツブリの巣は、独特でヨシなどの中で植物を集めて浮巣を作ります。これは外敵が来られない場所で子育てするためですが、必ずしも安全ではありません。筆者は、泳いできた蛇に襲われるのを見たことがあります。親鳥は、卵を守るために大きな声で鳴き必死に抵抗しましたが、力尽き巣を放棄しました。

カイツブリの数

カイツブリは、涸沼で３番目に多いカイツブリ類です。ほかのカイツブリ類と違い一年中みられる留鳥です。この10年の間、多い日で５羽ほど確認できました。群れを作らず、単独か数羽程度で行動しています。

茨城県では、レッドリストの準絶滅危惧種に指定されています。全国でも繁殖記録が大きく減少し、理由として魚食性の外来種のオオクチバスによって主要な餌である小型の魚が減っていることが指摘されています。筆者の涸沼のデータでも、２０１５年から毎年のように確認数が減り、今後が心配な種の一つです。

写真１　夏羽のカイツブリ

写真２　カイツブリの雛

ちびっ子アート　飯沼こども園

「あめふり」
こばやし　うた（６歳）

「にじをみたよ」
ほそや　みこと（６歳）

再生紙を使用しています
PRINTED WITH SOY INK 環境に優しい大豆油インキを使用しています